

視聴覚関係事業の現状と今後の取り組み

担当課長 石野 周

(学習情報グループリーダー)

一 はじめに

石川県立生涯学習センターでは生涯学習に関する様々な事業を展開している。

その中で、学習情報グループが担当する事業は、石川県生涯学習情報提供システム「あいあいネット」の運用、まなびすとルームの運営、視聴覚関係講座（兼六ビデオ講座、本多の森シネマアーカイブ）、映画上映会（本多の森映画会、夏休み子ども映画会、本多の森キッズシアター）などである。

また、石川県視聴覚教育協議会との共催等により、いしかわビデオ作品コンクール、各種講習会（視聴覚セミナー、ICT活用講座、県民映像カレッジ）を実施している。

これらの中から、視聴覚教育関係の事業について、その現状と今後の取り組みを紹介する。

二 視聴覚関係講座

①兼六ビデオ講座

「いしかわ大百科」、「いしかわ人国記」等のテレビ放映された番組や当センター視聴覚ライブラリーが所蔵するDVD教材を活用し、映像を通して本県を含め幅広い

くわが国の歴史や文化について学ぶ講座である。

受講生からは「今まで知らなかった郷土の歴史を知ることができ、新たな発見があった」等の感想が聞かれ、参加できなかった講座の解説資料を求める受講生もいるなど、大変好評である。



なお、平成二十九年度の上映内容は次の通りである。

I期（五～七月）…「いしかわ大百科 ふるさとの彩り」、「いしかわ人国記」、「そのとき歴史が動いた 乱世の英雄編」。

II期（八～十月）…「いしかわ大百科 ふるさとに元氣！石川のモノづくり」、「いしかわ人国記」、「そのとき歴史が動いた 時代のり

ダーたち編」。

III期（十一月）…「いしかわ大百科 ふるさとの手仕事」、「映像の世紀I」

②本多の森シネマアーカイブ

当センター視聴覚ライブラリー所蔵の十六ミリ映像教材を活用し、過去の自然、文化、歴史、芸術等を学ぶ講座である。

本県ゆかりのものも含め、他ではあまり見るのできない映像の数々は、県民の方々にとっても貴重な体験になっていると思われる。また、近年映画館を含めフィルム上映が行われる機会は激減しており、映像文化の継承という観点からも意義は大きい。

なお、平成二十九年度の上映内容は次の通りである。

（七～十一月）「能登門前アマメハギ」、「金沢・伝統工芸と芸能」、「山に生きる」、「明日への躍動 石川国体の記録」、「ほほえみの石川国体」、「雪と災害」、「路傍の石」、「次郎物語」

三 映画上映会

①本多の森映画会

マナビイフェアin本多の森や六園周辺文化の森ミュージアム

ウィークと協賛する形で映画会を実施し、イベントの活性化や施設の有効利用を図っている。往年の名作映画のほか、最近の話題作等

を上映しているが、中高年世代にとっては心温まる一時となっているようである。

なお、上映作品は、当センター視聴覚ライブラリーが所蔵するDVD教材を活用している。

平成二十九年秋の上映内容は次の通りである。

②夏休み子ども映画会

「深夜食堂」、「ドラマ ラジオ」石川県立美術館ホールを会場として、夏休み期間中に実施している。当センター視聴覚ライブラリーが所蔵するDVD教材等を活用し、映画鑑賞を通じて子どもたちの心豊かな生活を育んでもらうため、児童クラブ、保育園等の団体や家族での鑑賞など、多数の参加を得ている。

大画面を集団で観ることにより、興味や関心を深めることができ、映画が持つ臨場感や躍動感を子どもたちに直接伝えることができたと思われる。

平成二十九年夏の上映内容は次の通りである。

「ふるさと再生 日本の昔ばなし」、
「ドナルドダック1」、「レオ・レ
オニ 5つの名作集」

③本多の森キッズシアター

映画鑑賞を通して幼児や小学生
の心豊かな生活の確立に寄与する
ため、当センターで実施している。

長期休業期間中の行事としての
ニーズが高く、児童クラブ・幼稚
園・保育園等の団体からも毎回多
数の参加を得ている。

平成二十九年夏の上映内容は次
の通りである。

「ふるさと再生 日本の昔ばなし」、
「ムーミン谷の彗星」

四 いしかわ

ビデオ作品コンクール

石川県視聴覚教育協議会の主催
事業として、石川県教育委員会の
共催を得て実施している。平成
二九年度で、第四十八回を数える
歴史ある事業である。

例年、十月下旬から二月上旬を
応募期間として、教材部門と一般
部門の二部門で作品を募り、多数
の応募を得ている。二月中旬の審
査会において、各部門の最優秀賞
一点、優秀賞一点、奨励賞三点を
決定し、三月上旬に表彰式・発表
会を開催している。

なお、平成二十七年以降の受
賞作品のうち、作者の了解が得ら
れた作品については、広く県民に
観ていただけるよう、石川県生涯
学習情報提供システム「あいあい

ネット」上で公開している。
今後、ビデオ作品制作を通して、
本県の文化や伝統、自然などに
ついて学ぶ機会を広めるためにも、
広報活動に努力し、コンクールの
より一層の普及と充実を図ってい
きたいと考えている。

五 各種講習会

①視聴覚セミナー

視聴覚教育・生涯学習に携わる
方々を対象に、視聴覚教育の理論
と実際について学習し、併せて教
育環境における現状と課題につい
て研究協議を行っている。

平成二十九年度は、講師として
金沢学院大学の武村敏幸准教授に
よる講演「ネットワーク社会と法
的諸問題について」を実施した。



②ICT活用講座

視聴覚教育・生涯学習に携わる
方々を対象として、情報技術革命
における教育メディア関連の課題

について、その対応策や利用法の
習得を図る講座を実施している。

平成二十九年度は、「ワード
2013使いこなし講座」を実施
した。

インストラクターの指導による
「学び直し」行うことで、正しく
効率的な使用方法や有用な機能を
学び、広報等の文書作成能力の向
上を図ることができた。

③県民映像カレッジ

近年デジタルビデオ等の普及に
よるビデオカメラの小型軽量化が
進み、女性や年配の方でも気軽に
面倒な操作もなく屋外で撮影でき
るようになった。また編集もビデ
オデッキを使う方法から、パソコ
ンを使うノンリニア編集へと変
わってきた。そこで、ビデオ撮影
初心者を対象とし、映像作品制作
のための基本や作品構成、パソコ
ンによる編集技術を習得する本講
座に人気が集まっている。

この講座の修了者は年輩の方も
多いが、非常に意欲的で、初歩的
なものには飽きたらず、自宅にビ
デオカメラやパソコンといった機
器を備え、より専門的な技術・技
能を身に付けようと努める人も多
い。それだけビデオの撮影・編集
は奥が深いともいえる。

なお、この講座の修了者によっ
て生涯学習センタービデオクラブ
(SVC)が組織され、自主サーク
ルとして毎月第2土曜日に作品観
賞等の月例会を実施するなどの活

動を行っている。また、SVC会
員の方には、講師やサポートスタッ
フとして、県民映像カレッジの運
営にも協力していただいている。



六 おわりに

生涯センターが生涯学習におけ
るアクティブ・ラーニングの場と
して機能することは重要な課題で
ある。

全国視聴覚教育連盟の研究プロ
ジェクトにおいて研究を進めてい
る「地域のメディアコミュニケーション
センターづくり」「地域のメディア
センターのあり方」といったテー
マも、アクティブな学びの環境づ
くりにつながるものである。

当センターにおいても、全国視
聴覚教育連盟や地域の生涯学習施
設等と連携し、アクティブな視聴
覚教育の環境づくりを進めていく
ことが、今後の課題である。